

G空間情報センター

ニュースレター 第53号 2026年1月発行

【目次】

- [1. 【TOPICS】 G空間情報センター 運営開始 10周年・活動のご紹介](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2025.11.1-12.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. 書籍『緊急支援物流と道路ネットワーク-災害に備えるインフラ整備-』の紹介](#)
- [5. G空間 EXPO2026 1/28\(水\)~30\(金\) 東京ビッグサイト現地開催](#)
- [6. 最新リーフレットのご案内](#)

1. 【TOPICS】 G空間情報センター 運営開始 10周年・活動のご紹介



(一社) 社会基盤情報流通推進協議会 代表理事
(東京大学空間情報科学研究センター 教授)

関本 義秀

1. G空間情報センター 運営開始 10周年

2016年11月に運営を開始したG空間情報センター（以下、当センター）は、おかげさまで今年11月に10周年を迎えます。産官学を問わず組織の壁を越えた多様なデータの統合・融合と価値創出実現の場として、当センターのデータを軸とした様々なプロジェクトを多数展開しています。

皆様のご支援のもと、登録データファイルは10万件、登録組織数は700件を超えました。当センターからダウンロードできるデータは近年拡充が進んでおり、法務省の登記所備付地図データ、全国の人流オープンデータ、災害時の3次元点群データ等、[当センターHP](#)より様々な地理空間情報をダウンロード可能となっています。



図1：G空間情報センタートップページ (<https://front.geospatial.jp/>)

2. G空間情報の流通・利用促進のための活動

当センターの運営を担う（一社）社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）は、G空間情報センターを核としてG空間情報の流通・利用促進のための活動を広げてきました。

G空間情報を用いた課題解決を目指した取組みの一例として、地方公共団体のオンライン電子納品を支援する「[My City Construction](#)」、市民協働投稿サービス及び道路損傷検出サービスを備える「[My City Report](#)」があります。いずれも利用者数は順調に増えており、My City Constructionは静岡県を始めとする21自治体、800以上の法人が利用、My City Reportは千葉市を始めとする38団体で導入いただいています（2025年12月現在）。

また、データセットと3D都市空間の可視化環境を一体的に扱い様々な自治体の課題解決を支援する「[デジタルシティサービス](#)」は、2025年現在、66自治体の参加による年4回の研究会開催を通じて、自治体職員や関係者が普段使いできる仕組みの構築を進めています。G空間情報センターのデータハブとしての取組みとして、国土交通省が運営する[国土交通データプラットフォーム](#)との連携や、都市局の「[Project PLATEAU](#)」で整備された各種データやプログラムの公開も実施しています。更には、災害情報分野では、[リアルタイム災害情報](#)として大雨や地震等災害発生時の緊急撮影データの提供を継続して行っています。

近年では、より一層G空間情報の流通・利用促進を進めていくため、国の関係機関、あるいは建設コンサル企業やゼネコン企業との意見交換や、各種研究会の実施も精力的に実施しております。その他プロジェクトは[当センターHP](#)の「関連プロジェクト」よりご参照いただけます。

今後も、産官学の垣根を越えて多くの皆様と協働しながら、多様なデータの統合・融合を目指した活動を多方面で展開して参ります。引き続き当センターをよろしくお願いたします。

3. 【1/28-30】 G空間E X P O2026 出展のご案内

当センターは、今年度もG空間E X P O2026へ出展いたします。昨年同様、今回も東京ビッグサイトにて、防災産業展・グリーンインフラ産業展・国際宇宙産業展との同時開催です。

会場の当センターのブースでは、各プロジェクトのメイン担当が直接ご案内させていただきます。皆様のご来場をお待ちしております。

【会場開催】

- ・日時：2026年1月28日（水）～1月30日（金）
- ・会場：東京ビッグサイト東ホール

※事前の入場登録推奨

【オンライン開催】

- ・2026年1月21日（水）～2月13日（金）

G空間E X P O2026の入場登録・詳細は以下HPをご確認ください。

<https://www.g-expo.jp/>

4. 【1/30開催】 G空間情報センター セミナーのご案内

当センターの運営開始 10 周年の節目にあたり、G空間E X P O会場内にて以下の通りセミナーを実施いたします。セミナーでは、当センターのこれまでの振り返るとともに、最新動向をお伝えいたします。

ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

- ・タイトル：G空間情報センター10年の歩み ～G空間情報センター・AIGIDご紹介～
- ・日時：2026年1月30日（金） 11:30～12:10（40分）
- ・会場：東京ビッグサイト内セミナースペース
- ・備考：ご参加は先着100名、聴講申込が必要

詳細及び聴講申込は以下HPよりご確認をお願いいたします。

<https://springfair.nikkan.co.jp/webinar/detail/1789>

2.上位アクセス状況(集計期間：2025.11.1-12.31)

登録ユーザー数	129,628 名
期間アクセス数	621,581
登録組織数	724 件
データセット数	14,578 件
ファイル数	109,271 件

人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
2	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
3	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 横浜市 (2024 年度)
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 渋谷区 (2023 年度)
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2024 年度)
6	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 新宿区 (2023 年度)
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 港区 (2023 年度)
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 千代田区 (2023 年度)
9	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. 書籍『緊急支援物流と道路ネットワークー災害に備えるインフラ整備ー』の紹介



株式会社 建設技術研究所

内田 大輔

我々（株）建設技術研究所では、12月15日に「緊急支援物流と道路ネットワーク」という書籍を大成出版社より発売しました。その紹介をさせていただきたいと思っております（下図）。

緊急支援物流と 道路ネットワーク

—災害に備えるインフラ整備—

監修／苦瀬 博仁、江守 昌弘

編／国土文化研究所

著／株式会社建設技術研究所 物流研究会

渡部 幹／岩崎 順一／内田 大輔／吉岡 正樹／寺奥 淳／柳木 功宏／大井 孝通／
小澤 俊博／鈴木 雅彦／笠井 敏祐／清水 喜一／海老原 寛人



大成出版社

図1：本書の表紙

近年、日常会話でも「物流」という用語を頻繁に耳にします。「物流2024年問題」という言葉のとおり、物流の危機が日常的に報道で取り上げられることも影響しているのでしょうか。物流が便利な日常生活を支えていることは、まぎれもない事実ですが、災害時には、さらに物流の重要性は高まります。

我が国は世界でも珍しいほどの災害大国であり、地球上で発生する大地震の約5分の一は日本で起きています。約100年前の関東大震災や30年前の阪神淡路大震災、21世紀に入ってから、東日本大震災、熊本地震、そして昨年の上旬には能登半島地震が発生しました。そして近い将来において、南海トラフ地震や首都直下型地震の発生が予想されています。

地震以外にも、台風や線状降水帯による被害が毎年のように発生しており、時には噴火や風害なども起きています。

これまで我々は、大災害に見舞われると、日常生活の場が奪われるだけでなく、被災者に食料品や生活用品などの物資が必要になることを経験してきました。災害時という経験を活かし、普段から物資の補給や備蓄について考えておく必要があるでしょう。特に、備蓄に限りがあるならば、被災者の生命を守り生活を維持するためにも、物資を補給するための「緊急支援物流」が極めて重要なはずで

す。しかし、過去の災害では、道路の破断や通行不可が緊急支援物資の輸送を妨げていたことが幾度もありました。だからこそ被災時の緊急支援物流のためにも、道路の強靱化を進めなければなりません。国土交通省では、道路土工構造物の点検や道路防災点検を実施し、重要物流道路を指定しています。また、災害時の応急対策として道路啓開計画を進めています。これらの対策は、我が国にとって必須のインフラ整備と考えられます。

一方、道路啓開後であっても物資供給拠点間の輸送や避難所への配送が課題になることも我々は経験してきました。このため、現在進められている道路啓開計画をさらに一步進め、被災時の物資供給拠点や避難所を想定し、より細やかな道路ネットワークについて強靱化を進めていく必要があると考えられます。

我々（株）建設技術研究所では、緊急支援が必要となる生活物資のサプライチェーンやライフラインの実態を把握するとともに、災害時における緊急支援物流とそのための道路ネットワークのあり方について研究に取り組んできました。この研究成果を、冒頭でご紹介しました「緊急支援物流と道路ネットワーク」という書籍に取りまとめました。

本書は、自然災害が多い我が国において、災害時の緊急支援物資の供給に焦点を当て、これを実現するために不可欠な道路ネットワークの計画を考えていくものです。すなわち、災害時に生命と財産の安全確保のために、最初に避難や救助を行うこととなりますが、次に避難や救助後に生命を維持するためには、生活物資のサプライチェーンや供給処理などのライフラインの確保が不可欠となります。本書はこの点に着目して、そのために必要不可欠なインフラとしての道路ネットワークの強靱化を考えたものでございます。

本書は、4部構成になっています（下図）。

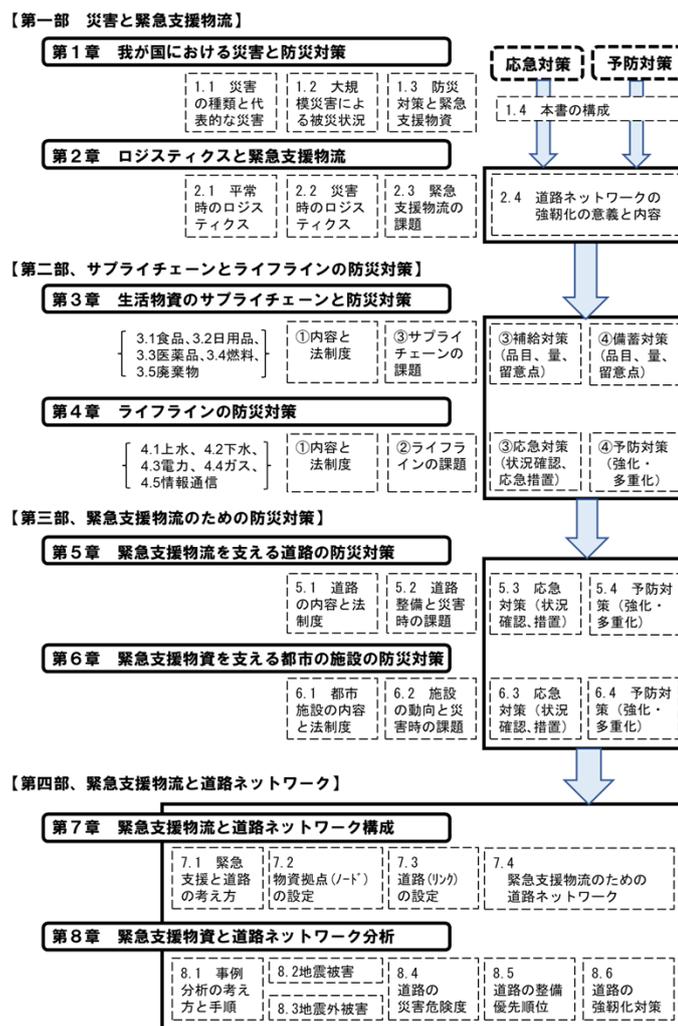


図2：本書の構成

第一部は、「災害と緊急支援物流」として、我が国における災害の特徴と、緊急支援物流を考えるものであり、第1章（我が国における災害と防災対策）、第2章（ロジスティクスと緊急支援物流）から成っています。

第二部は、「サプライチェーンとライフラインの防災対策」として、生活物資のサプライチェーンと供給処理のライフラインを扱っています。具体的には、第3章（生活物資のサプライチェーンと防災対策）にて、5品目の生活物資（食品、日用品、医薬品、燃料、廃棄物）を取り上げ、第4章（ライフラインの防災対策）にて、5つのライフライン（上水、下水、電力、ガス、情報通信）を取り上げています。

第三部は、「緊急支援物流のための防災対策」として、道路と都市の施設の防災対策を扱っており、第5章（緊急支援物流を支える道路の防災対策）、第6章は（緊急支援物流を支える都市の施設の防災対策）から成っています。

第四部は、「緊急支援物流のための道路ネットワーク」として、災害時の緊急支援物流のための道路ネットワークの強靱化を扱っており、第7章（緊急支援物流のための道路ネットワーク構成）、第8章（緊急支援物流と道路ネットワーク分析）から成っています。

この書籍が、自治体や道路管理者のみなさんの災害対策の一助になれば幸いです。

■本記事に関するお問い合わせ先

株式会社建設技術研究所 東京本社 交通システム部 内田大輔 (uchida@ctie.co.jp)

5. G 空間 EXPO2026 1/28(水)～30(金) 東京ビッグサイト現地開催

最新の地理空間情報の業界動向やアイデアなどの情報収集に、ぜひ現地に足をお運びいただければ幸いです。

◆現地開催

- ・入場登録・詳細

→<https://www.g-expo.jp/>

- ・G 空間情報センター現地セミナー詳細・お申込み

<https://springfair.nikkan.co.jp/webinar/detail/1789>

※オンライン開催は、1月21日(水)～2月13日(金)までとなっております。

6. 最新リーフレットのご案内

G 空間情報センターをはじめとした AIGID 関連プロジェクトのリーフレットの最新版が公開されました。

下記ページより PDF 版のダウンロードが可能です。

G 空間 EXPO のご来場時の事前情報等、ぜひご活用ください☆

[AIGID 関連最新版リーフレット掲載ページはこちら](#)

G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は [こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#) をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの [お問い合わせ](#) は、該当の [データセット名](#) と [URL](#) を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G 空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-203

Email : info@geospatial.jp

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。